

芸能人装う「サクラ」サイト 焦りから深入り... 資金援助型など多様化

2013年8月21日 産経新聞

サクラサイト急増するトラブル (NHK TV)

「サクラ」を利用して言葉巧みに出会い系サイトなどへ誘導し、高額な利用料金を請求するサクラサイト商法。芸能人などをかたる「なりすまし型」のほか、資産家を名乗って援助を申し出、「手続き」と称してメールでのやり取りを引き延ばす「資金援助型」など手法は多様化している。約2千万円をだまし取られた福岡県の男性(54)は「だまされるのがバカだと思うが、当時はそれだけ追い詰められていたのかもしれない」と振り返った。

男性が出会い系サイトに登録したのは平成21年3月。当時の勤務先から関西への異動を命じられ、単身赴任生活を送っていた。長男が大学進学を控えて家計が苦しい中「資金援助させてほしい」というメールが目が留まった。仕事環境から精神的に余裕のない毎日を送っていたせいもあり、軽い気持ちで返信した。

誘導されたサイトでやり取りをはじめ、手渡して現金を受け取る約束を取り付けた。一往復600円のメールを何度も交換したが、「知的な相手ではなく、すんなりカネが手に入るのでは」と考えていたという。

約束当日。集合場所に到着してメールを重ねたが、相手に会うことはできず、この日だけで利用料金1万円以上を費やしてしまった。「損失分だけでも取り返さなくては」。焦りから、サイトに深入りしていった。

退勤後、明け方までパソコンに向き合う日々で判断能力も低下し、「銀行頭取夫人」や「年商100億の女」からの誘いにも飛びついた。「1件でも本物なら、損はすべてチャラになる」。約1年で、利用料金は1千万円に達していた。

妻に打ち明け、義父の遺産で借金を返済したが、家族の冷ややかな視線を受け、損害回復への決意はいっそう固まった。一時は自殺も考えたが、冷静さを取り戻したのは、退職金を返済の一部に充てる目的もあり会社を辞職、業務上のストレスから解放された後のことだった。

男性がサイト運営会社に約2200万円の損害賠償を求めた訴訟で、東京高裁は今年6月、全額の賠償を命じる逆転勝訴を言い渡した。しかし、運営会社側は上告し、派遣労働などで稼ぐ月10万円ほどの収入は、今も消費者金融への返済で消えていく。

男性は「出会い系には心の隙を突き、抜け出せなくする仕組みがある。『自分は大丈夫』と過信しないほしい」と訴える。(時吉達也)。



いま、各地の法律事務所に相次いで寄せられている「サクラサイト商法」をめぐる相談。関東地方に住むこの女性は「600万円をだまし取られた」と言います。

被害を訴える女性

「いま考えれば陳腐な、滑稽というか冷静になればそう思うんですけど、本当にどっぷり、気がついたらどっぷりいた。」

トラブルのきっかけ。それは見知らぬ人から突然送られてきた一通のメールでした。差出人は有名タレントのマネージャーと名乗る人物。「芸能活動で精神的に疲れているタレントを助けてあげてほしい」と頼んできました。そして、メールのやりとりをあるサイトで行いたいと求めてきました。いわゆる「サクラサイト」でした。

「サクラサイト」はメールの交換を取り次ぐサイトです。多くの場合、最初は無料ですが、やがて料金が発生。利用者は運営業者にクレジットカードなどで支払います。業者は、タレントなどになりました「サクラ」を用意。一回のやりとりは数百円ですが、何度も繰り返しメールを交換させることで多額の料金を請求する仕組みになっています。女性は、最初は無料だったこともあり、軽い気持ちでメールのやりとりを始めました。

「気分が悪く苦しい。」「仕事相手が苦手で憂鬱になる。」毎日、届くメールを読むうちに、次第に親身に相談にのるようになっていったといいます。



被害を訴える女性

「私でよければ相談とか話し相手であれば、放っておけないという一心で言葉によって励まされたり、そういうことは自分でも経験ありますし。」しかし2週間後、メールは次第にエスカレート。多い日には1日100通。深夜にも送られてくるようになりました。多額な料金を請求されるようになり、女性はメールの交換を辞めたいと考えました。すると相手から、自殺をほのめかすメールが送られてきました。「もうこれが最後だよ。」「僕には明日は来ない。」メールをやめたら本当に自殺するのではないか。不安にかられた女性はやりとりを続けてしまいました。結局、だまされていると気づいたのは半年後のことでした。

被害を訴える女性

「命の危険が」なんて言われたら、ドッキリさせられたりするので、今となっては甘いなどはもちろん思っているけど冷静になれなかった。」